

出張報告書

令和 7年 9月 1日

市議会議長 烏野 隆生 様

会 派 名 にじの会
代表者氏名 高比良 正明

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 富山市/氷見市 視察
- 2 出張先 富山市/氷見市
- 3 出張期間 令和 7年 7月 29日～令和 7年 7月 31日
- 4 出張者氏名 高比良 正明、殿本 マリ子、河合 達雄
- 5 てん末報告 別紙のとおり

7月30日 午後 / 7月31日 午後

富山市 (Sketch Lab) 視察

この場所は産学官民の立場を超えた対話による「未来共創」を推進することで、地域課題の解決や新ビジネスの創出を図るという場所です。この施設は富山市駅の近くにあり、複合施設の中に設けられ私たちが到着した時はお昼時でこの施設の近くで、老若男女の方々がカフェやショップに集い、賑やかに過ごされていました。

官民連携チームで考え出されたこのスケッチラボはこれからの富山市の未来を年齢関係なく富山市民はもちろんのこと移住や多拠点居住でも住みやすい優しい街を作るプロジェクト拠点であると思いました。

- ①「挑戦する文化」とそれを応援する文化がある町
- ②「多様な人」が「気軽」に繋がれる町
- ③「誇り」と「余裕」を持てる町
- ④「自然」と「便利」が両立する町
- ⑤「若者」「よそ」者も暮らしたくなる町

この5項のビジョンをあげ2020年からスタートしたと聞いてい

ます。現在この5つの項目が示すようにこの富山市に降り立った時に生活するのに便利で老若男女が住みやすく、落ち着いたとても素晴らしい町だと思いました。

7月31日 午前

氷見市視察

氷見市における「子育てしやすい環境づくりの充実」について視察

氷見市の役所は廃校になった高校の体育館及び校舎を市庁舎へとリノベーションし間仕切りなしのオープンで使いやすい市庁舎だと感じられました。これも廃校利用と経済的負担をなくすという市民にとっても税金の無駄遣いをしないより良い方法だと思いました。

今回は、子育てしやすい環境づくりの充実とはどういうことをとり入れているか参考にさせていただきました。

地域子育てセンターを軸に支援ネットワークで子育て世代を応援しています。子育て支援課、こども家庭センター、健康科、地元ボランティア、保育園 認定こども園、各種関係機関、子供発達サポートセンター、地区子育てサークル、放課後児童クラブのことがここで全てわかる仕組みであり相談事のある子育て世代にとっては分から

ないことがここですぐ解決できます。

例えば幼保小連携により小1プロブレムのないように幼保から小学校へと連携しています。

子育てにおいては孫とお出かけ支援事業があり氷見市立博物館などの対象施設の入館料等が祖父母も孫も無料であり、また出産においては不妊治療費を受けているご夫婦に対して全額助成やアプリにより電子ポイントを配布し1歳半時に一律3万円分をデジタルポイントでもらい、それを子育てに使える仕組みになっています。

また移住定住などは移住世帯生活応援金を移住子育て世帯に地域内商品券又は電子地域通貨10万円分支給など定住マイホーム取得支援補助金市内在住子育て世帯では最大60万円、市外移住子育て世帯は最大140万円と子育てには大きな支援をしています。現在も他県から移住促進で子育てしやすい環境作りを実施しているのがわかりました。やはり若い世代が定住してくれるには子育てにおける支援の方法を岸和田市もより考えていかなければならないと思いました。